

会 議 名	第1回 金シャチ横丁第二期整備 博物館ゾーン整備基本構想検討懇談会		
日 時	令和4年3月23日(水) 午前10時00分～午前11時30分		
場 所	WEB会議		
参 加 者	(構成員) 木下直之委員、古池嘉和委員、佐々木雅幸委員、千田嘉博委員、 高田徹委員、田沢裕賀委員 (オブザーバー) 北折真人委員、山田英一委員 (名古屋城総合事務所名古屋城保存整備室) 佐治所長、鈴木室長、 大橋係長、中野主査 鈴木主事 (名古屋城調査研究センター) 村木副所長、原主査、朝日学芸員		
報 告 日	令和4年3月28日(月)	報 告 者	株式会社創建 小村
<議事内容> ○基本整備構想の背景等について 資料1-1に基づき、事務局より説明 (質疑応答) 特になし  ○事業概要等について 資料1-2に基づき、事務局より説明 (質疑応答) 【高田委員】芝居小屋風多目的施設について、外観が芝居小屋風なのか、興行などの具体的な内容はこれから検討されるのか。 【事務局】休憩所を主として整備するものの、舞台を活用して、伝統芸能や現代興行を見て頂く施設を目指している。スケジュールとして、来年度から設計となり、2025年度中の開業を目指している。 【高田委員】基本は休憩所であり、金シャチ横丁の飲食店に入らない人等がお弁当を食べる空間という認識でよいか。 【事務局】そのとおりである。 【木下委員】第2期整備の期間はいつまでなのか。 【事務局】第2期整備の内容として、芝居小屋風多目的施設と博物館があるが、後期で整備することになる博物館の整備が完了するまでが第2期整備という位置づけである。基本構想を2022年度に策定し、その後は想定ではあるが、2年程度かけて基本計画、その後、実施設計・工事という流れとなる。それぞれで最低限必要な期間を積み上げていく			

と、最短で2028)年となることを想定しているが、最短での場合であり、各段階での進捗にもよるかと思う。

【木下委員】芝居小屋風多目的施設は先に実現させる予定で、構想はできているのか。芝居小屋風多目的施設との関係は懇談会で取り扱うのか。

【事務局】概ね芝居小屋風多目的施設の基本構想はできており、入口や動線等は検討されている。今後、懇談会において資料提供したい。博物館の検討対象地の北側に隣接するため、位置関係を意識はしていきたいが、内容を懇談会で取り扱う必要はないと考えている。

【木下委員】参考資料1の絵のなかに建物が描かれているが、博物館の正面はどこかなど、建物の姿は白紙として考えてよいのか。

【事務局】芝居小屋風多目的施設については、参考資料1の絵のなかにある西側を正面の入り口とした建物である。また、博物館の検討対象地に描かれている3棟は、現在建っている建物であり、将来的な博物館の建物イメージではない。

【木下委員】懇談会の目的は、この1年間に市が策定を進める基本構想に対して、意見を寄せるということによいか。懇談会開催要綱第2条の役割について、伺いたい。また、懇談会の期間としてはいつまでなのか。

【事務局】これから1年かけて市が策定する基本構想に対して、ご助言やアドバイスをいただきたい。今回は懇談会という位置づけであり、議決や意思決定を求める審議会ではなく、先生方の意見や助言をいただくことを目的としている。期間としては概ね1年を目途として実施することで理解いただきたい。

#### ○その他、博物館ゾーン整備基本構想について

【古池委員】観光という視点から、有益な点と留意点について述べたい。大学で毎年、犬山市へフィールドワークに行くが、近年、犬山城下町は女性に人気があり、観光地化が進んでいる。メインとなる本町通の一本裏の通りには、尾張最古の古酒「忍冬酒」の小島醸造所がある、またげんこつ飴の高田屋製菓などが息づくが、その道は誰も歩いていない。犬山ではある種テーマパーク化されたようなエリアと、実態として（文化が）息づいているがあまり関心がよせられていないエリアが筋一本で区分され、そのコントラストが年々激しくなっているため、観光の在り方としては望ましくない。名古屋城の検討対象地において、資源として息づいているものがあればその資源を視野にいれていくとより深みのあるものとなる。

【佐々木委員】本丸御殿はしっかりと作り込んであり、城跡においては特に文化的価値のあるものを再現していくことが本流である。文化観光の視点からも本物の価値を一番大切にし、一過性の人寄せではなく、後世まで残

るものが必要だと感じるため、天守についても本格木造再建が良いと主張してきた。金沢城は天守については記録がなく、記録がないものを再建することはできなかったが、周辺の門や長屋については記録に基づき、本格木造で再建したため、風格が漂っている。名古屋城の場合は、本丸御殿や天守は歴史的なゾーンであり、文化的なものをきちんとみせていく必要があるが、金シャチ横丁をはじめ博物館の検討対象地は、観光色の強いものとして想定される。芝居小屋風というのは少し寂しいが、元々、この地に芝居小屋があったわけではないので、仕方ない。

金沢城の周辺整備においては、記録に基づき加賀藩の伝統工芸「御細工所跡」が確定し、職人を養成する施設にしたという経緯がある。博物館の検討対象地には、歴史的には何があったのか。博物館の立地の歴史性を踏まえた調査を行い、埋蔵文化財等の記録に基づいた要素を取り入れるとよい。

**【事務局】** 金シャチ横丁と検討対象地のあたりには、名所図会や古地図から東照宮と別当である天王坊の寺社空間であったことが分かっている。一部、天王坊の後園の築山や石垣が現存しているため、史跡ゾーンとして活用し、公開する方向になるのではないかと思っている。発掘調査については一部実施されており、近代になると陸軍の本部として地下室がつくられた。その経緯から、地下遺構が壊されているとは聞いているが、今後、地下遺構として何が残っているかを調査し、検討していく予定である。

**【佐々木委員】** 城郭の歴史として、戦時中、軍隊に利用されていたことは、大阪城や金沢城等でも同様の歴史がある。これも検討対象地の歴史ということも博物館のテーマになる。名古屋というまちは、戦災後の都市計画において広幅員の道路が整備されたこともあり、歴史の記憶が消失している。当時の町並みや生活を体験できるものがここにあると良い。また博物館には城や城郭、徳川家に関わるテーマが当然入ってくるが、風俗や芸能に関わる資料を扱い、芝居小屋風多目的施設との関わりを持たせる等、博物館と芝居小屋風多目的施設とを統一的に実施していくとよい。

**【千田委員】** 既に本丸御殿は木造で再現され、天守もそれに続くという状況にあり、博物館が名古屋城特別史跡の本質的価値を高めるために非常に重要な施設として位置づけられるべきである。名古屋城特別史跡の全体整備計画のなかで、博物館を位置付けて、全体として機能させていくことが重要である。

名古屋城のほかに、全国で城郭調査研究、情報発信を行う類似施設があるが、福井県的一条谷朝倉氏遺跡資料館は、来年度、新しく体験型施

設として改築される。姫路市の城郭研究センターがあるが、ほぼ機能を停止している状況にある。また、佐賀県立名護屋城博物館は大きな展示室を備えているが、現在は右肩下がりの予算となっしまい、調査研究や展示が課題となっている。滋賀県が安土城郭研究所を設立したが、現在は廃止されており、城郭調査係となっている。石川県の金沢城調査研究所には展示施設はないが、金沢城の研究をはじめ、研究所として独自の予算があり、自立的な研究をしており、手本となるのではないか。熊本市の熊本城調査研究センターは独自の調査研究を目的にスタートしたが、2016年の熊本地震により、当面20年間は文化財の修復に専念せざるを得ない状況となっている。

このように全国的な城に関わる調査研究機関、専門博物館を見ると、現在の名古屋城調査研究センターが入るということだけではなく、日本の城について世界に発信する施設は他にはない。

江戸時代の空間がよみがえらせた本丸御殿に続き、史跡の本質的価値を顕在化させるために木造天守は不可欠な整備手法である。そのなかで近世の武家文化を中心として、どういうことが行われていたかを市民をはじめ、全国、世界に発信をするために、まさに木造天守と両輪となる重要な施設に位置付けるべきと考える。名古屋城が究極の近世城郭であるため、名古屋から日本の城と近世武家文化を発信し、名古屋城に来れば、全体像のことがわかって体験できる、このような博物館ができることは非常に素晴らしい。それぞれの城を発信する施設は全国各地にあるため、新しい博物館の役割は名古屋城の調査研究機能と情報発信に加えて、日本の城を代表して城の価値を世界に発信する専門機関はないので、その機能を併せ持ったら、全国にはない特色となる。世界中から日本の武士や城を知りたかったら、まず名古屋に行こうと言っただけの施設となるのではないか。

新しい博物館の展示機能において、市内にある名古屋市博物館や徳川美術館、蓬左文庫などと連携をして、本物をみせるサテライトとしての役割を果たし、本丸御殿や木造天守と合わせて、城のなかで武家文化がどのように展開されたのかを紹介していくと、総合的に体験・体感できる施設となる。また、ソフト事業も非常に重要であり、世界の城や騎士をテーマに、世界から研究者を集めて国際的なシンポジウムなどが開催できると良い。全国各地にある城に付随する施設ではなく、壮大な志をもってその実現をしてもらえることを期待している。

**【田沢委員】**名古屋市内には優れた博物館として、名古屋市博物館と徳川美術館がある。名古屋市博物館はまちの博物館として、徳川美術館は武家文化を紹介する施設である。そことのすみわけや、連携をどうするかが、新しい博物館のポイントとなる。

また、二条城は江戸文化の出発点であるが、名古屋城の価値というのは障壁画にあり、桃山文化の最終点であると共に、次の展開を示した出発点という絵画史からみても大きな魅力がある。障壁画を含めた本丸御殿の再建は非常にレベルの高いものとなっている。さらに天守は資料があるなかで作られてきた、架空の城ではないという強さがあり、観光拠点としては十分だが、本質的な価値を全体でみることによって、深まるものだと思うので、名古屋城のすごさを理解させてくれる施設というのが、新しい博物館の役割である。その価値は一見しただけでは分からないため、根拠を示すのが調査研究の役割である。また日本の城文化を示しうるのは、城にゆかりのある資料をもっている博物館であり、本質的な価値を継承した形で再現することによって新しい価値が生まれる。観光拠点として数年単位で考えるのではなく、長期的な視野で城全体の整備計画を立てるべきである。また単に来館者数や滞在時間で評価される博物館ではなく、本質的な価値を具体化させて感じさせる、時間を取ってみるべき価値がある博物館として位置づけてほしい。

【高田委員】天王坊について名古屋市の報告書に測量図があったが、近世段階の遺構は確認されているのか。

【事務局】そうではないかという程度であり、今後、発掘調査を行い、整備にあたってどの段階の遺構であるかを確認する必要がある。石積みは新しいものであり近代以降に手を加えられているのは間違いない。

【高田委員】旧陸軍第三師団司令部跡のレンガ塀が残っており、今後、発掘調査を行うと遺構が出てくる可能性がある。名古屋市民にとって明治以降の歴史も重要であるため、検討対象地の歴史を踏まえるとともに、現代に続く部分について取り扱うとよい。また、現天守も50年以上の歴史があり、銅板の飾り一つをとっても見応えがある。今後、取り壊すのであれば、最上階などを部分的にでも展示すると良い。名古屋と言えば金シャチをイメージさせるので、何か活用すると良い。

【事務局】現天守を取り壊して終わりではなく、近代遺産として現天守のパーツを文化財として残していく方向性はある。

【木下委員】新しい博物館では近現代までを視野に入れるべきだと思う。戦後をふりかえると、全国各地の城のなかでも名古屋城は資料が残っていたことから、最も良い形で再建ができた。当時の再建の背景は戦災復興であったが、現在の背景の一番は観光である。そうした状況のなかで木造天守と連動した本格的な博物館をつくるべきだと思う。博物館として小さくまとめるのではなく、志を高く、本物志向で整備してほしい。

再建される木造天守は展示機能を持たないのか、また今までの展示機能は新しい博物館に移すのか。

【事務局】再建される天守は、展示機能を持たず、建物自体を見てもらう、体感

してもらふ施設となり、資料を展示する計画はない。新しい博物館は直接の後継施設ではないが、名古屋城の所蔵品は博物館に引き継がれる。現天守での展示経験を活かした施設にしていきたい。

【木下委員】名古屋城の収蔵品の内容や点数などを示していただけると良い。また、継承される収蔵品のなかに旧本丸御殿障壁画は含まれるのか。

【事務局】次回、懇談会にて名古屋城の収蔵品一覧等、内容が分かるものを用意したい。旧本丸御殿障壁画やガラス乾板については、御蔵城宝館に収蔵している。

以上